

【研究主題】

主体的・対話的に学ぶ児童の育成 —学習環境を整え児童の活動を認める指導を通して—

【二寺の課題】

主体的な学びにつながる内容

- ・他者理解、思いやり、相手への配慮、相手意識
- 思考力、自分で考えて行動する力

対話的な学びにつながる内容

- ・深い学び合い、対話的主体的な関わり方、話合い、コミュニケーション
- ・対話のための表現力、自分の意見や考えをもつ、伝える、提案力

児童

- ・主体的な学びにつながる発問
- ・対話的な学びの有効活用
- ・指導方法のよさの実感

教員

【研究仮説】

どのような学習活動においても、

①各教科等全ての活動につながる

教員が児童の興味や関心をひく環境を整え、

②導入の工夫や具体物としての写真・絵・資料・ICTの工夫、思考ツールの準備

児童同士の学び(の時間)を活かしながら、

③話合いで生まれた意見から次の展開につなげることで教員の発問量が減る

自分の考えをもつことを認めていけば、

④なぜ？や自分だったら？の揺さぶりや児童の意見に朱を入れたり、ICTに映し出したりする

児童は主体的・対話的に学ぶことができるであろう

【成果と課題】

成果

- 全教員で全教科を網羅し、主体的・対話的に深い学びの実現に向けた授業研究ができた。
- 教師の手立てによって児童は主体的に課題解決しようとする姿が見られた。

課題

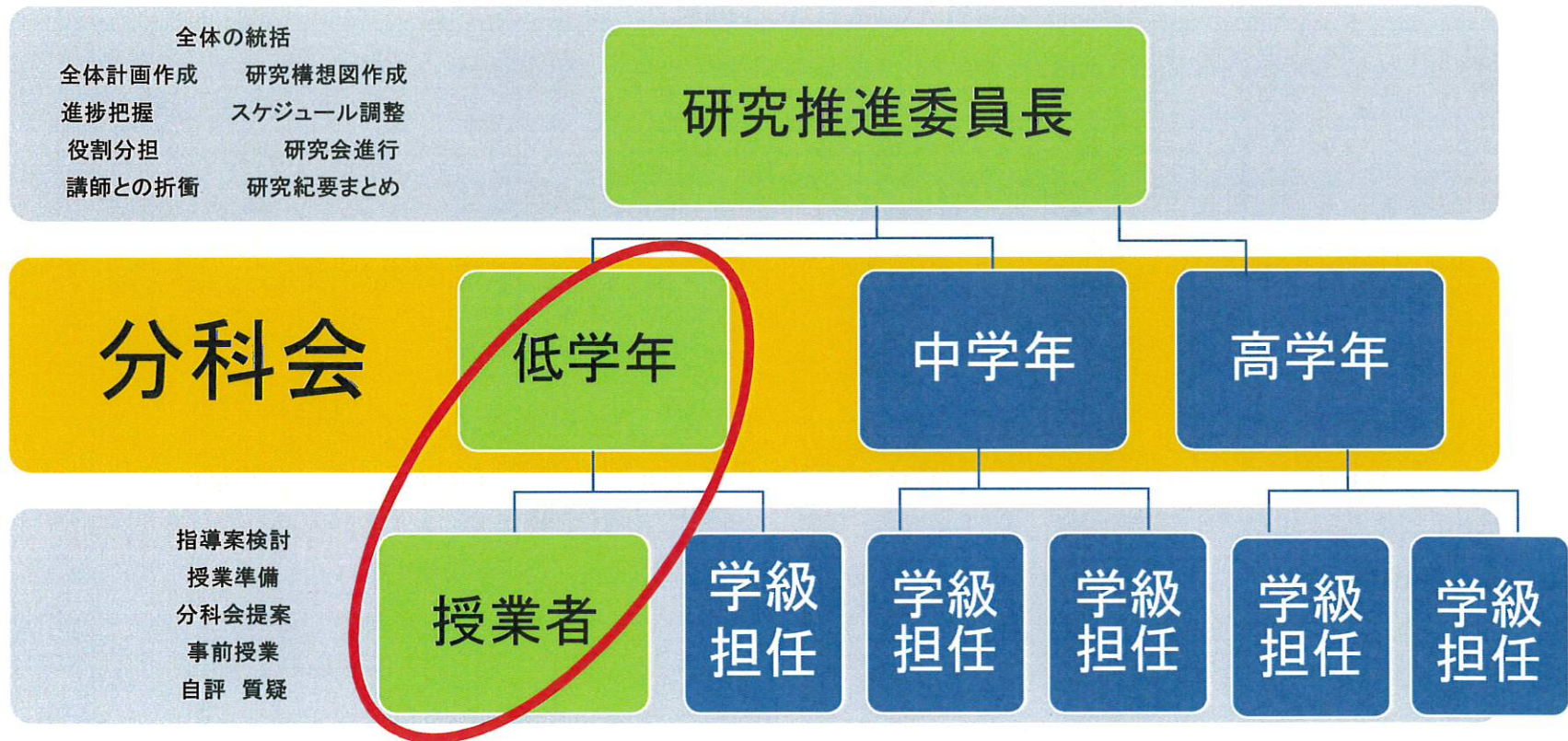
- 学び合いの場面において、自身の考えや技能ポイントをうまく伝達できなかった児童が多くいた。学び合いが有効に働かない時があった。

⇒認め合ったり、褒め合ったりするポイントを明確にし、見る視点を精選して教師と児童の役割分担をすることで、学び合いの場面において、よりの確に助言、伝達ができたのではないか。

⇒「対話的に」深い学びを実現するためには、児童の充実した生活体験と普段からの知識の習得が必須であり、その土台は教師が提示する必要がある。その上で、教師が児童に対話技能を生かせる機会を与えなければならない。

今までの研究組織

- ◎: 学年で協働
- ◎: 安心感
- ◎: 自由度が高い
- ▽: 全体に広がらない
- ▽: 特定の教員の多忙感
- ▽: 分科会の横のつながりが少ない



改編した研究組織

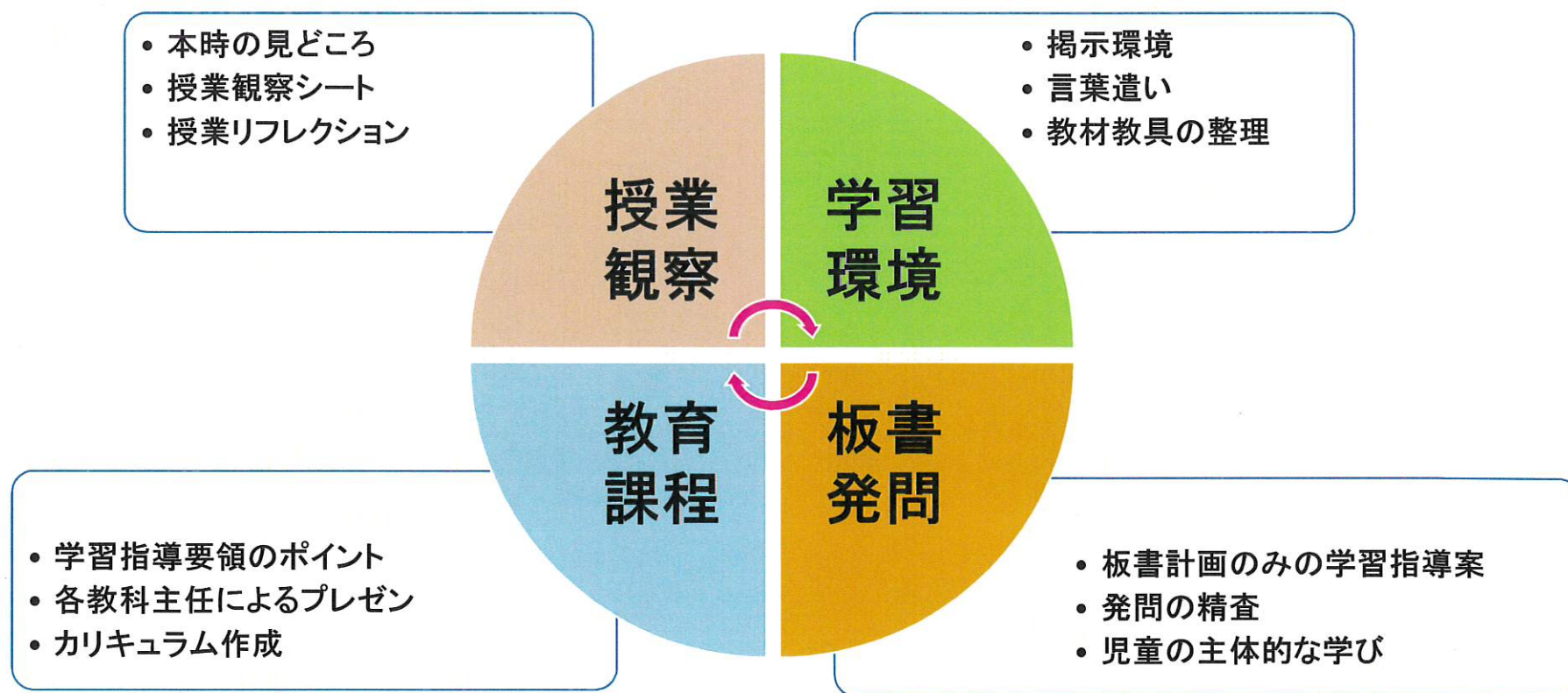
◎:各教科の専門性 ◎:カリキュラムマネジメント

◎:主体的に研究に関わる意識の醸成

▽:学年間の連携 ▽:ファシリテート力



研究の進め方



授業リフレクション

指導案 作成

- 3日前までに校務PCフォルダへ
- 本時の見どころを明記

授業 実施

- 全ての主任教諭が授業を公開
- VTR撮影
- 授業観察カード

リフレク ション①

- 授業者のふりかえり
- 対話型リフレクション **授業者 × 参観者**
- VTR視聴

リフレク ション②

- 授業観察シート **ミニ協議 × 全体で共有**
- 授業改善の手立て

開発物の活用

活用の具体例。

学習の見通しをもたせるために

(音楽)

1 曲学習の中で、自分がどこまででできるようになったのかを視覚的に確認するために楽曲や学年に応じた楽譜を作って使用しています。

十年級 ユーザーごんばりカード

できるよになってきたら友達同士で楽譜し合ってチャレンジできる楽譜を付けています。

授業に1分間ごとの暗唱を聞いています。どんどん覚悟を深めていくととらに音楽は自分の楽譜を付けていきます。

楽譜	楽譜	楽譜	楽譜
①	②	③	④

④ 楽譜工作

6年生木工の単元例。完成までの見通しを持ち、必要に差が出た場合でも自分で作り進められるように、写真やイラストでポイントを説明し提示しています。

友達同士で互いの活動に興味を持って見たり、教え合ったり、質問を交換するです。

7年生も自分で作り進めたい児童には、まだがんばらせて指導して

～ ○○を知ろう ～

*共通の学習課題

*自分の学習課題

*課題を決めた理由

↓

《調べる内容》

《方法》

学び方を身に付ける工夫

6月

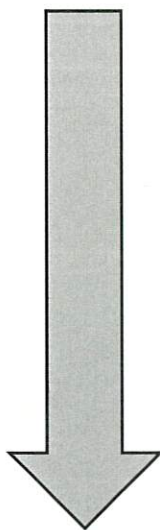


提案授業

全主任・主幹教諭による環境提案授業

資料提示

興味・関心をひく提示、児童が自分の考えをもち児童同士が学び合うことができる発問の精選



11月



第2学年算数「図をつかってあらわそう」検証授業

第2分科会（算数・理科）提案

- ① 思考の流れカード活用
- ② 問題解決に向けた思考の流れを順序立てる
- ③ 主体的に自分の考えをもつ
- ④ 友達に伝えることができる

